

館岩カブ

1, 解説

館岩村を中心に栽培されている赤カブで、福島県農業誌によると、およそ300年前頃から焼畑式で栽培されてきたという。8月下旬頃に播種し10月下旬から11月上旬に収穫される。葉は、へら型で鋸歯は小であり、通常は緑色であるが、低温に遭遇すると茶褐色を帯びてくる。根の形状は、長首で、根の表面は赤紫～赤褐色であり内部は白い。肉質は堅く、甘みが多く、ある時期は甘味源として利用されたこともある。

漬け物用として主に利用されるが、かつては糧めし等の材料とする救荒作物として利用された時代もあった。

2, 写真



最大葉



生育初期の姿



肥大開始期



肥大開始期



根の形状は様々である



(H16館岩村農産物品評会より)



上方から見た株



一般的なカブ(右)と館岩カブ(左)
低温により葉が赤くなる(試験場内ハウス)



栽培地(館岩村木賊地区)

収穫期



収穫期



現地での栽培(11月1日撮影)



栽培地(館岩村木賊地区)

3, 遺伝資源の栽培および保存状況

- ・ 館岩村で広く栽培されている。
- ・ 村内外で加工品（主に漬け物）が販売されている。